



神様が与えてくれた試練

リスマ ティカスマワティ
RISMA TIKASMAWATI

二〇二一年三月十二日、私は病院のベッドに寝かされていました。そして、これから始まる手術のために全身麻酔を掛けられ、少しずつ意識がなくなっていきました。

二年前、私は介護の技能実習に行くために、日本語の勉強を必死で始めました。日本を選んだ理由は、富士山や桜や紅葉などの自然が美しく、インドネシアでは感じるができない四季があり、別世界への憧れもあったからです。

二〇一九年七月、日本から面接のために、施設の方がやってきました。質問に答えるのがやっとで、面接が終わった時は緊張が解けて、体の力が抜けてしまいました。そして、結果発表で自分の名前が呼ばれた時は、夢がかない、嬉しさでほっとした瞬間でした。

二〇二〇年一月、私は介護の技能実習生として、憧れの国だった日本にやって来ました。そして、群馬県の施設で技能実習を開始しました。施設の人たちは皆さん優しく迎えてくれて、安心したのを今も思い出します。また、着物を着たり、天ぷらうどんを食べたり、いちご狩りをしたり、初めて雪を見てソリ遊びをしたり、実習以外でも沢山楽しいことがありました。

でも、憧れの国は楽しいことばかりではありませんでした。冬の寒さは想像以上でしたし、群馬の風は「からっ風」と言うそうで、とても強く、飛ばされそうになりました。

私が体験した四季の中では、大好きな桜が咲く、春が一番好きです。

もう一つ残念なことは、私が日本に来てすぐに、コロナウイルスもやって来たことです。施設はお年寄りも多く、ウイルスに感染すると命に関わります。私たちも、外出の制限やマスクの着用、消毒の徹底などの指示が出され、楽しみにしていた休日も、アパートで過ごすことが多くなりました。

日本に来てから、食べたい物や行ってみたい所は沢山ありましたが、残念ながらスマホの中で見ただけの一年になってしまいました。それでも、技能実習にも慣れ、利用者や日本の職員とも楽しく毎日を過ごしています。

そんな時、体の異変が気になり、施設の方と病院に行って診てもらった所、手術が必要な病気が分かりました。私はショックから、どうして良いのか分からず、すぐに家族と相談し、日本で手術することに決めました。

麻酔が解け、私はだんだんと意識が戻りました。手術が無事に終わったことを聞き、私はすぐに家族に連絡をしました。家族も安心していました。今も施設の方と病院に通っています。一人での入院や手術は心配でしたが、良くしてくれた施設の方と病院に感謝の気持ちで一杯です。

日本に来て、本当に色々なことがありました。楽しいことも苦しいことも。そして病気のことも。全ては「神様が与えてくれた試練」だと思っています。これからも日本で働きながら勉強することを頑張りたいです。

受賞の喜び



国 籍 インドネシア
職 種 介護
実 習 実 施 者 社会福祉法人東毛会
監 理 団 体 協同組合ケアサポート瑞穂

リスマ ティカスマワティ

二〇二一年七月二九日、施設の方より私の作文がコンクールで「優秀賞に選ばれたよ。」と言われました。喜びで飛び上がってしまいました。私の作文が選ばれるとは、夢にも思っていませんでしたので、今でも信じられません。

この賞は、私だけの力ではなく、家族や施設の方や組合の皆様が応援してくれたお陰です。本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

私が「神様が与えてくれた試練」をテーマに選んだのは、日本に来てから病気が見つかったことで、生きる喜びを知ることが出来たからです。辛いことが訪れても負けずに頑張れば、困難を乗り越えられるように、神様が見守ってくれると私は思います。

これからは、日本語の試験、介護福祉士の資格の勉強もあります。日本で長く働くための試練として、一つ一つ夢が叶えられるように頑張りたいと思います。

指導員のことば

リスマ ティカスマワティさん、優秀賞受賞おめでとうございます。来日早々に新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令、職場や生活環境に慣れ始めた頃に訪れた病気の発見など。苦勞の多い日々でしたが、どんな困難にも明るい笑顔で前向きに進むリスマさん。夢に向かい懸命な姿を傍らで見てきて、私共も勇気を与えてもらいました。今後もインドネシアと日本の架け橋となり、更なる活躍を期待しています。

社会福祉法人東毛会 はるかぜ荘 生活支援課 小林 正枝